

平成 23 年 2 月 21 日

関係機関 各位

山口県医師会長
木下 敬介

スギ花粉飛散開始宣言について

平成 23 年 2 月 18 日(金)、山口県においてスギ花粉飛散開始を宣言します。

山口県医師会では、現在県内の 26 施設でスギ・ヒノキ科花粉飛散数を観測しており、下記の測定地点で 2 月 18 日(金)、2 月 19 日(土)と 2 日間続けて 1 cm² あたり 1 個以上のスギ花粉が確認されました。これで県内においてスギ花粉の飛散は始まったと言えます。飛散開始日の条件は、一測定施設でスライドガラスの 1 cm² 内に 1 個以上スギ花粉が捕集される日が原則として 2 日以上続いた最初の日となります。

1. 測定施設、測定個数について

地区	測定機関	2 月 18 日(金)	2 月 19 日(土)
長門	長門総合病院	3.0 個/cm ²	2.5 個/cm ²

2. 過去の飛散開始日について

平成 22 年 2 月 8 日	長門地区 厚生連長門総合病院
平成 21 年 2 月 4 日	光・熊毛・宇部・下関・美祢・長門地区 測定
平成 20 年 2 月 2 日	山口大学医学部 測定
平成 19 年 2 月 3 日	厚生連小郡第一病院 測定

3. 予防策

- ・外出時、できるだけ帽子やめがね、マスクを着用する。
- ・外から帰ったときには衣服や頭髮についた花粉を十分に払いのけ、手洗いや洗顔など、露出した部分を洗うように心がける。
- ・洗濯物や蒲団を干すときには、なるべく花粉がつかないような場所(屋内等)で干し、取り込むときには花粉を十分に払いのける。
- ・内服などの治療や点鼻・点眼を早めに始める。
- ・花粉症でない方も、屋内(室内)にできるだけ花粉を持ち込まないように注意する。

4. 山口県における 2011 年のスギ花粉飛散総数の予測

昨年夏は記録的な猛暑でした。気象庁によると、日本全国の 6 月から 8 月の平均気温は観測史上最高であったそうです。一般に、スギ雄花の形成は、夏の気温が高く、日照時間が長く、降水量が少ないほど促進されると考えられています。

昨年 11 月の時点では、雄花を着けている枝の割合の高い木が多いものの、夏の気象のような史上最高の着花状態ではないようです。しかし、平年を大きく上回る花粉飛散になるものと考えられますので、十分な花粉症対策が必要です。

ヒノキ科花粉も平年の 1.5 倍程度であった 2009 年と同程度以上の花芽は着いているように思われ、多くなることが予想されます。

提供：社団法人 山口県医師会

TEL: 083-922-2510 / FAX: 083-922-2527 URL: <http://www.yamaguchi.med.or.jp>

山口県医師会花粉情報システム

目的

花粉症の軽減と予防を目的として、山口県医師会が主体となり、医療機関をはじめ山口県学校薬剤師会の協力の下、県民に対し花粉飛散状況や予測情報を提供する。

また、測定器具をダーラム型に統一し、各地区の飛散状況の変化も検討しながら、地域に密着した情報を提供できるよう取り組む。

提供期間

毎年1月初旬(スギ花粉初観測日)からその年の4月下旬(ヒノキ科花粉飛散終了)まで。

イネ科花粉については、随時飛散個数を山口県医師会ホームページ上で提供する。

提供団体

山口県医師会花粉情報委員会

提供情報

- 1 初観測日、スギ花粉飛散開始及び飛散終了宣言
- 2 飛散状況
- 3 飛散予測情報

東・中・西・北部の4ブロック

* 2、3については、スギ花粉飛散開始日以降(例年2月上旬)に開始する。

* スギ花粉初観測日とは、その年初めてスギ花粉が測定された日。

* スギ花粉飛散開始日とは、同一測定施設で、1月以降にスライドガラスの1cm²内にスギ花粉が1個以上捕集される日が、原則として2日以上続いた最初の日と定義される。(財団法人日本アレルギー協会の定義による)

システム構成

- 1 測定施設
県内 26 施設(医療機関・薬局・中学校)
- 2 測定方法
ダーラム型捕集器を使用
- 3 測定状況・予測情報集約
山口県医師会事務局で集約
- 4 測定状況の解析、予測情報の作成
山口県医師会花粉情報委員会
- 5 情報提供
関係機関に FAX 送信、山口県医師会ホームページ
(<http://www.yamaguchi.med.or.jp>) 上で、公開する。